

T A C 講師による短期合格のための
学習法・コース選択

T A C 税理士講座

目 次

ページ

テーマ 1 税理士試験について…………… 1～3

テーマ 2 合格を勝ち取る勉強法…………… 4～14

テーマ 1

税理士試験について

税理士は、納税者の納税義務が適正に実現されるための業務を行うと同時に、国の財政等に直接関係する業務を行っており、その業務内容は、税務業務や会計業務にとどまらず、経営コンサルティング等、多岐にわたっています。ただし、税理士として業務を行うためには、税理士試験に合格しなければなりません。ここでは、税理士試験の詳細について、データとともに紹介致します。

1 税理士試験の日程

税理士試験は、例年8月中の平日3日間に行われます。試験時間は、全科目とも2時間です。また、合格発表は、例年12月下旬に行われます。

2 受験資格

税理士試験を受験するには下記のいずれかの受験資格を有していることが必要です。

1 学識

- (1) 大学、短大又は高等専門学校を卒業した者で法律学又は経済学を主たる履修科目とする学部・学科・学校を卒業した者、または、それ以外の学部・学科・学校を卒業した者で法律学又は経済学に属する科目を1科目以上を履修した者
- (2) 大学3年次以上の学生で、法律学又は経済学に属する科目を含め62単位以上を取得した者、または、法律学又は経済学に属する科目を含め36単位（外国語及び保健体育科目を除く最低24単位の一般教育科目が必要）以上を取得した者
 - ・ 法律学に属する科目の例
法学、法律概論、憲法、民法、刑法、商法、行政法、労働法、国際法等
 - ・ 経済学に属する科目の例
(マクロ又はミクロ)経済学、経済学原論、経済政策、経済学史、財政学等

2 資格

- (1) 日本商工会議所主催簿記検定試験1級合格者
- (2) (社)全国経理学校協会主催簿記能力検定試験上級合格者

3 職歴

- (1) 弁理士、司法書士、行政書士、社会保険労務士等（業務従事期間2年以上）
- (2) 法人等における会計事務経験者（業務従事期間2年以上）
- (3) 税理士、公認会計士、弁護士等の業務補助経験者（業務従事期間2年以上）

なお、受験資格を有するかどうか判断しかねる場合には、「国税庁内国税審議会税理士分科会」へお問い合わせ下さい。

3 科目選択制度

科目選択制度とは、税理士試験の試験科目全11科目から5科目を選択することができる制度です。試験科目の中には、下記の表で示すような必須科目・選択必須科目等の制約もありますが、この制度により科目選択にかなりの幅が認められています。

会計科目		税法科目								
必 須		選択必須		選 択						
簿記論	財務諸表論	法人税法	所得税法	相続税法	消費税法	酒税法	固定資産税	事業税	住民税	国税徴収法

(注1) 消費税法と酒税法は、どちらか1科目しか選択できません。

(注2) 事業税と住民税は、どちらか1科目しか選択できません。

4 試験科目の内容

科 目	内 容
簿 記 論	企業が行った取引をどのように会計帳簿に記録するかを学習
財 務 諸 表 論	株主等に報告するための財務諸表の作成に関する考え方を学習
法 人 税 法	会社の儲けに対して課される税金について定めた法人税法の考え方を学習
所 得 税 法	個人の儲けに対して課される税金について定めた所得税法の考え方を学習
相 続 税 法	相続等で財産を無償取得した場合に課される税金について定めた相続税法の考え方を学習
酒 税 法	アルコール飲料に対して課される税金について定めた酒税法の考え方を学習
消 費 税 法	商品の販売等に対して課される税金について定めた消費税法の考え方を学習
固 定 資 産 税	個人等が有する固定資産に対して課す税金である固定資産税について学習
事 業 税	事業活動を行う個人及び法人に対して課す税金である事業税について学習
住 民 税	所得のある個人及び法人に対して課す税金である住民税について学習
国 税 徴 収 法	国税の徴収に関して定めた国税徴収法の考え方を学習する科目

5 科目合格制度

科目合格制度とは、1科目ずつ受験することができ、1度合格した科目は生涯有効になる制度です。また、科目合格の段階でも評価され、就職や転職に当たり有利に働きます。

つまり、ライフスタイルや将来プランに合わせて受験でき、一歩ずつステップアップしながら、着実にゴールを目指すことができます。

6 税理士試験の特徴

税理士試験の合格基準は、各科目ともに満点の60%（すなわち60点）となっていますが、出題される問題の難易度やボリュームに関わらず、各科目の合格率は、ほぼ10～15%で毎年安定しています。つまり税理士試験は、全受験者のうち上位10～15%の人が合格する競争試験です。

また、どの科目の出題もボリュームが多く、制限時間内にすべてを解答できる問題は出題されません。難易度については、年によりかなりバラツキがあります。ある年の合格ラインはTACでの予想配点で70点位、次の年では40点位というように、簡単な年と難しい年では約30点もの開きがあります。では、なぜ毎年一定の合格率を保っているのでしょうか？

実は、正解率の高い解答箇所の高い配点を置き、正解率の低い解答箇所は配点を軽くする等の採点上の調整が行われているのです。したがって、難しい箇所が解答できたか否かではなく、受験生の多くが解答できる基本的事項をどれだけ確実に得点したかで合否は決まります。

税理士試験の特徴

- ・制限時間内では解ききれないボリュームの問題が出題される
- ・難易度に関係なく毎年一定の合格率(10～15%)を保っている
- ・合否をわけるのは基本的事項の正解率

参考 最近5年間の科目別合格率の推移

	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年
簿記論	12.5%	14.8%	18.8%	12.2%	13.2%
財務諸表論	13.1%	16.6%	20.7%	22.4%	18.4%
法人税法	12.6%	12.5%	12.6%	12.4%	12.4%
所得税法	14.3%	13.4%	12.3%	14.8%	13.2%
相続税法	13.9%	11.6%	12.8%	11.7%	12.9%
酒税法	12.3%	12.3%	12.4%	11.8%	13.0%
消費税法	12.3%	13.7%	12.4%	11.8%	10.3%
固定資産税	10.5%	12.2%	17.0%	13.7%	14.8%
事業税	11.9%	17.1%	9.9%	12.0%	13.5%
住民税	16.2%	16.5%	16.5%	12.2%	8.7%
国税徴収法	12.1%	13.3%	13.6%	12.9%	13.2%

テーマ 2

合格を勝ち取る勉強法

初めて税理士試験を受験される方は、勉強を開始するにあたって、様々な疑問や不安を抱えていらっしゃると思います。ここでは、税理士試験を合格するための「学習のコツ」をお話しします。当セミナーで疑問点・不安点を解消していただき、本格的な学習の良いスタートを切るのに少しでもお役に立てれば幸いです。

1 受験プランの立て方

税理士試験の受験計画を立てるにあたっては、「長期的目標（何年で5科目に合格するか?）」と「短期的目標（次の試験でどの科目を受験するか?）」の2つの目標を明確に持って下さい。

1 長期的目標（何年で5科目に合格するか?）

「何年で5科目に合格するか?」は、「学習に充てられる時間がどれくらいあるか?」、「どの科目を受験するか?」等によって左右されますが、学生等、受験に専念できる環境にある方は2～3年、仕事との両立を目指す社会人の方は3～5年位を目安にするのが一般的です。

なお、税理士試験の各科目は、下記の通りボリュームがマチマチです。ボリュームの少ない科目を組み合わせることで、仕事をしながらでも1年で複数科目の合格も可能となります。

標準 学習 時間	600時間	法人税法	所得税法	
	450時間	簿記論	財務諸表論	相続税法
	300時間	消費税法		
	250時間	固定資産税		
	200時間	事業税	住民税	
	150時間	酒税法	国税徴収法	

（注）標準学習時間には、TACでの講義時間を含みます。なお、学習時間は個人差がありますので、目安としてお考えください。

2 短期的目標（最初の試験でどの科目を受験するか？）

長期的目標が定まったならば、次に「最初の試験でどの科目を受験するか？」を決めましょう。
その際には、次の点に留意してください。

(1) 1週間あたりの学習可能時間を正確に見積もる

どれだけ能力のある方でも、学習に充てる時間が不足していると、良い結果を得ることはできません。次の表で1週間あたりの学習可能な時間を計算してみましょう。

（単位：時間）

	月	火	水	木	金	土	日	合 計
可処分時間								

(2) 各科目の特徴を把握する

税理士試験の各科目には、「簿記知識が必要な科目とそうでない科目」、「初めての受験に向いている科目とそうでない科目」というようにそれぞれ特徴があります。これらを把握して、適切な受験科目の選択を行って下さい。

① 各科目の簿記知識の必要性

簿記の知識が不要な科目	相続税法	酒税法	固定資産税	国税徴収法
簿記3級の知識が必要な科目	消費税法	事業税		
簿記2級の知識が必要な科目	簿記論	財務諸表論	所得税法	
簿記・財表の知識が必要な科目	法人税法			
所得税法の知識が必要な科目	住民税			

② 初めての受験に向いている科目

簿記論・財務諸表論といった会計科目は必須科目であり、その知識は法人税法等の学習において役立ちます。また、これらの科目は、同時に学習すると相乗効果が得られます。しかし、それぞれボリュームがあるため、いずれか1科目選択するのであれば、簿記論をお勧めします。

③ 2回目以降の受験に向いている科目

法人税法・所得税法といった選択必須科目はボリュームが多いことから、学習スタンスが確立した2回目以降に受験されることをお勧めします。また、事業税・住民税は、法人税法・所得税法と深く関連することから、これらは法人税法・所得税法と同時にしくは学習後に受験するのが好ましいです。

3 科目選択の具体例

学 習 時 間	週30時間以上	簿記論 + 財務諸表論 + 税法科目(ボリューム少)※
	週20時間程度	簿記論 + 財務諸表論
	週15～20時間程度	簿記論 + 税法科目(ボリューム少)※
	週10～15時間程度	簿記論

※ 消費税法・酒税法・固定資産税・国税徴収法のうち、いずれか1科目

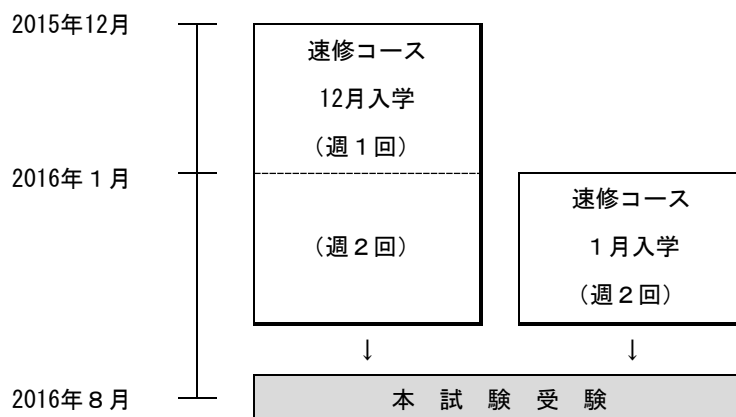
4 教室講座の12～1月開講コース

教室講座の12～1月開講コースには、「速修コース(12月入学、1月入学)」があります。

(1) 速修コース

速修コースは、初めて学習される方を対象に4月までの短期間で全試験範囲を効率よく学習するコースです。なお、5月(直前期)からは、本試験と同形式・同レベルの問題演習を積み重ね、実践的な答案作成能力を身につけます。

なお、「12月入学」は1月下旬まで週1回、それ以降は週2回のペースで通学します。一方、「1月入学」は通年通して週2回のペースで通学します。



□ 参 考 オプション講座のご紹介

1 財務会計入門

税理士試験の会計科目（簿記論・財務諸表論）を学習するにあたり、日商簿記検定２級（商業簿記）程度の知識が必要になりますが、この知識は財務会計入門で得ることができます。

簿記を全くの学習したことがないという方は財務会計入門Ⅰ（全８回）より、日商簿記検定３級レベルの知識をお持ちの方は財務会計入門Ⅱ（全８回）より受講しましょう。なお、「簿記の学習をしたのがかなり昔なので不安だ」という方は、財務会計入門Ⅰから受講することをお勧めします。

簿記初心者の方

簿記３級レベルの方

財務会計入門Ⅰ

⇒

財務会計入門Ⅱ

⇒

税理士会計科目

2 簿記論先取り学習講座

当講座（全４回）では、日商簿記検定２級レベルの方を対象として簿記論で出題される重要論点の先行学習を行います。開講までの時間を有効活用すべく当講座を受講し、スタートダッシュを決めましょう！

学 習 論 点

一般商品売買

特殊商品売買

社債

有価証券

有形固定資産

2 講義の受け方

皆さんが学習を進める上で最も重要なのは、学習内容を正確に理解して覚えることです。しかしながら、膨大な試験範囲の中から、優先順位を考えながら効率的に学習することは、独学では大変難しいものがあります。

TACでは、税理士試験合格に最短距離で到達できるカリキュラムと教材を長年の指導経験に基づいて制作しています。また、講師陣が、これらを用いて初学者の方にもわかりやすく講義を行います。ここでは、TACで講義を受ける際の留意点を説明します。

1 講義は、必ずすべて受講する

税理士試験は長丁場ですので、学習を継続するためには、規則正しい「学習のリズム」が必要となります。TACの教室講座は、毎週決まった曜日、決まった時間帯に講義を行いますので、これをペースメーカーにすれば自然と「学習のリズム」ができます。さらに、TACのカリキュラムは、税理士試験合格に最短距離で到達できるカリキュラムとなっており、すべて受講することで合格するための知識や答案作成能力が身につきます。

ただし、講義内容には流れがありますので、1回欠席してしまうと、学習内容がつながらなくなる恐れがあります。急な仕事や体調不良等の理由により、やむを得ず欠席しなければならないこともあるでしょう。そこでTAC税理士講座では、フォローシステムを下記の通り用意しています。これらを利用して、欠席した講義をできるだけ早めにフォロー受講してください。

- (1) クラス振替出席フォロー
- (2) Webフォロー
- (3) 音声DLフォロー
- (4) 個別DVD振替フォロー（有料）

なお、個別DVD講座及び通信メディアで学習する場合は、講義を視聴する曜日・時間帯を決定しましょう。そうすることにより、教室講座と全く同じ学習効果が得られます。

注 目 「Webフォロー」が標準装備に！

今年度より「Webフォロー」が無料でご利用いただけることになりました。「Webフォロー」は、欠席フォロー以外にも次のような利用方法があります。是非活用してください。

- (1) 教室受講前に視聴(予習)する（教室で講義を受ける際に「繰り返し効果」が期待できる）
- (2) 教室受講直後、確認したい部分だけ視聴する（効果的に復習できる）
- (3) 受講後、期間が空いた時に、忘れてしまった論点を再確認する（効率的に復習できる）

2 講義は集中して受講する

税理士試験は応用的な内容も出題されるため、単なる丸暗記だけでは太刀打ちできません。

TACでは、「なぜ、そのような計算を行うのか?」「どうして、そのような規定になっているのか?」といった内容説明に力点を置いた、理解中心の講義を展開しています。

したがって、テキストには載っていないけれども、理解や問題を解答する上で助けになるような事項を講義では説明します。それらをテキストにメモ書きする等して、一言たりとも逃さないように集中して受講してください。

なお、教室受講の場合は、なるべく前の方の座席に着席すると、自然と講義に集中できます。積極的な姿勢で講義に臨んでください。

3 疑問点や学習上の悩みは、すぐ講師に質問・相談する

長い受験勉強の間には、苦手論点やスランプは必ず出てきます。そのような学習上の疑問点や悩みが生じたら、一人で抱え込まず、すぐ講師に質問・相談するように心がけましょう。

講師は、税理士受験の「先輩」でもあります。受験生時代に皆さんと同様な苦手論点やスランプを経験していますので、必ず適切なアドバイスが得られます。

講師への質問・相談は、講義前後や休憩時間に直接できます。また、それ以外でも電話やメールでも質問対応しています。

講師は、皆さんが学習を進めていく上での「ツール」です。どんどん活用してください。

☐ 参 考 スクーリング制度

すべての通信メディアには「スクーリング制度（教室で無料受講できる制度）」というフォローシステムも設けています。教室の臨場感を味わいたい場合や、他の受講生のレベルを知る上で大変有用です。

3 復習の仕方

税理士試験は筆記試験ですので、講義で理解した知識レベルを、さらに問題が解けるレベルまで引き上げなければなりません。「復習」こそが合格のカギといえます。

「復習」を計画的・規則的に学習を行うためには、「週間スケジュール表」を作成し、それに基づいて実行するのが一番です。これを作成する上で、下記の事項を考慮してください。

1 優先順位を考えて、無理のないスケジュールを

無理な学習計画を立てたせいで、志半ばで挫折してしまう方も少なくありません。したがって、生活の中での優先順位を考えて、ゆとりをもったスケジューリングを心がけましょう。週間スケジュール表作成にあたっては、次の順序で埋めていくとよいでしょう。

- (1) コアタイム（睡眠、食事、移動、就業時間や大学講義、TACの講義等）を記入
- (2) 科目ごとに復習する時間を記入
- (3) 余った時間はフリータイム（完全休息日を設ける等、必ず息抜きする時間を設ける）

2 生活リズムを朝型にシフトする

合格者の中には「生活リズムを朝型にして、学習時間を確保した。」という方がたくさんいらっしゃいます。夜の疲れ切った頭より、朝のすっきりした頭で学習した方が効率的だからというのが理由です。短い時間ではありますが、時間が制約される分、かえって集中することになり、効率的に学習できます。

3 復習するタイミング

(1) 講義を受けたらすぐ復習

学習内容を確実に身につけるには、講義を受けたすぐ後に復習するのが大変効果的です。まさに、「鉄は熱いうちに打て」です。

(2) 計算は毎日学習

計算の学習は、コンスタントな反復練習が大変効果的です。30分だけの日があってもかまいません。毎日学習しましょう。

(3) 理論は、移動時間も利用

これも合格者の体験談ですが、「細切れの時間を有効利用した。」という事をよく耳にします。中でも移動時間はその代表例です。理論は暗記が学習の中心になりますので、暗記用の教材を常に携帯していれば、いつでもどこでも学習することができます。時間を上手に使い、効率良く学習して下さい。

4 学習すべき内容（小さな目標）を事前に決める

「今日は計算問題を10題解こう」とか「理論1題を必ずマスターしよう」というように、学習内容を事前に決めて、それをノルマとして学習しましょう。その方が集中力が高まりますし、達成感を味わうことでモチベーションも高まります。この小さな目標をコツコツ積み上げていけば、最後には大きな目標も達成できます。まさに「ちりも積もれば山となる」です。

☐ 参 考 1 週間のスケジュール（簿記論&財務諸表論の同時学習の場合）

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
6:00	睡眠 復習(簿記)	睡眠 復習(簿記)	睡眠 復習(簿記)	睡眠 復習(簿記)	睡眠 復習(簿記)	睡眠	睡眠
8:00	自由 移動(暗記)	自由 移動(暗記)	自由 移動(暗記)	自由 移動(暗記)	自由 移動(暗記)	自由 移動(暗記)	復習(予備)
10:00	会社	会社	会社	会社	会社	復習(財表)	自由
12:00						講義(財表)	
14:00						休憩	
16:00						講義(財表)	
18:00						復習(財表)	
20:00	移動(暗記) 講義(簿記)	自由 復習(財表)	自由 復習(財表)	移動(暗記) 講義(簿記)	自由 復習(簿記)	自由	
22:00	移動(暗記) 自由	自由	自由	移動(暗記) 自由	自由		
0:00							
2:00	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠
4:00							

※ 移動時間を利用して、講義内容の復習や理論暗記を行う

あなたの学習プランは？

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
6:00							
8:00							
10:00							
12:00							
14:00							
16:00							
18:00							
20:00							
22:00							
0:00							
2:00							
4:00							

4 テストの受け方

TACでは、前回の講義内容が理解できているか確認するため、毎回講義の冒頭に「ミニテスト」を実施します。また、これまでの学習内容が定着できているか、その効果測定を行うため、定期的に「実力テスト」も実施します。さらに直前期においては、本試験と同様の形式・難易度の「答練」を繰り返し実施し、答案作成能力に磨きをかけていきます。

ここでは、これらのテストの受け方について説明します。

1 テストはすべて受けて、必ず提出する

「テストが好きだ」という方は、おそらくいないと思います。しかしながら、税理士になるには試験に合格しなければなりません。しかも、税理士試験は年1回しかありません。そこで自分の持てる力を最大限発揮するためには、「試験慣れ」する必要があります。TACで実施するテストは、すべて受けましょう。

なお、本試験は出題者が採点を行います。したがって、「答案」には他者が見てもわかるような「客観性」が要求されます。

TACでは、皆さんにテストの答案を提出してもらい、それを講師が採点します。特に理論の答案は、独りよがりになりがちですので、必ず提出して、講師のチェックを受けてください。これにより、皆さんの答案に「客観性」が確保されます。

2 テストの目的は、「弱点発見・克服」にある

テストを受ける上で最も重要なのは、良い点数をとることではなく、「自分の弱点を発見すること」です。

誰しもテストでは良い点数をとりたいと考えますが、実際はなかなかうまくいかず、落ち込むこともあります。

しかし、TACで実施するテストは、すべて本試験に向けての「練習試合」です。そこで色々なことを試して、もし失敗しても、それを本試験までに修正すれば良いのです。

「なんでこんな間違いをしたんだ」と自分を責めるのではなく、「本試験前にこのような弱点があることに気づけてよかった」とポジティブにとらえましょう。そして、そのウィークポイントを本試験までに補強しましょう。まさに「失敗は成功のもと」です。

5 モチベーションの保ち方

税理士試験は長丁場です。効果的な学習を継続的にし、夢を実現させるためには、モチベーションを高く維持することが必要です。ここでは、モチベーションを持続するためのちょっとしたコツを提案します。皆さんが学習をすすめていく上で、少しでも参考になれば幸いです。

1 税理士資格取得後の自分を思い描く

例えば、「独立開業して一國一城の主となり、自分だけしかできないコンサルティングの仕事をして多くの顧問先から信頼される。」といったように、資格を取得した後、税理士としてどのような仕事をし、どのような形で社会貢献するかといった将来のビジョンを具体的に持ちましょう。そして、それを紙に書き出して、常日頃から確認してください。最終目標を常に意識することでモチベーションを高く維持することができ、それができれば必ず夢も実現します。

2 目標を達成したら自分にご褒美を

「今週のノルマを達成したら、週末ドライブに行こう!」、「ミニテストで満点をとったら、週末友達(家族)と出かけよう!」といったように、大好きな趣味や遊びを目の前にぶら下げておけば、嫌なことでも最後までやり通すことができます。「アメとムチ」ではありませんが、目標を達成したら自分にご褒美をあげましょう。次の学習の活力にもなるはずです。

3 受験仲間をつくる

同じ目標をもっている仲間と接し、情報や意見を交換することは、気持ちが鼓舞され、モチベーションを向上させるにはとても良い方法です。

受験仲間ができれば、わからないところを教えあったり、本試験や科目選択、その後の就職等、色々な情報を交換できます。さらに、受験が終わった後も、仕事上の相談相手としてこの関係はずっと続いていきます。受験仲間は、生涯お互いを高め合える存在になるでしょう。

4 家族・友人を味方にする

税理士受験では、かなりの時間を勉強に費やすことになります。そして、その勉強に集中できる環境を作るには、必ず家族や友人等の協力が不可欠です。「自分がなぜ勉強を始めたいのか」「将来自分はになりたいのか」といった考えを説明し、味方を作っていきましょう。

もし壁にぶち当たってしまったら、家族や友人の力を借りて励ましてもらいましょう。「頑張って」と応援してくれる味方がいれば、必ず壁は乗り越えられます。

本試験が終わったら、協力をしてくれた人に感謝の気持ちを伝えることも忘れないで下さい。

最 後 に

本日は、お忙しい中、当セミナーにご参加頂きありがとうございました。

税理士という仕事は本当に魅力ある職業ですので、是非ともチャレンジして下さい。TAC税理士講座一同、皆さんの1年でも早い税理士試験合格をサポート致します。